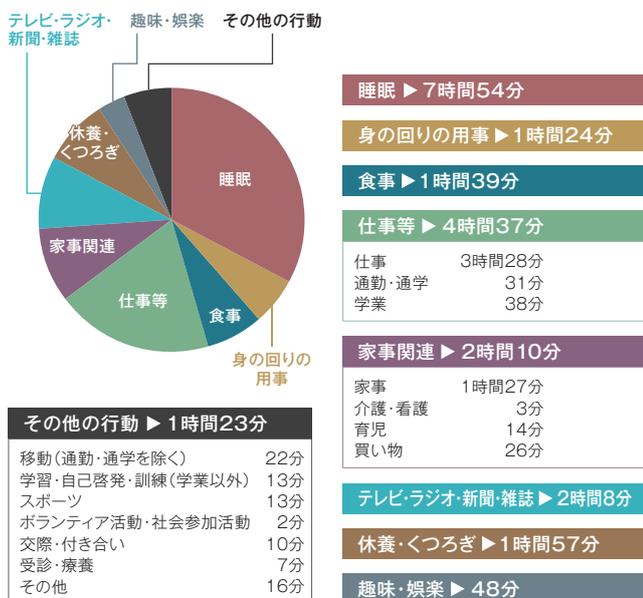


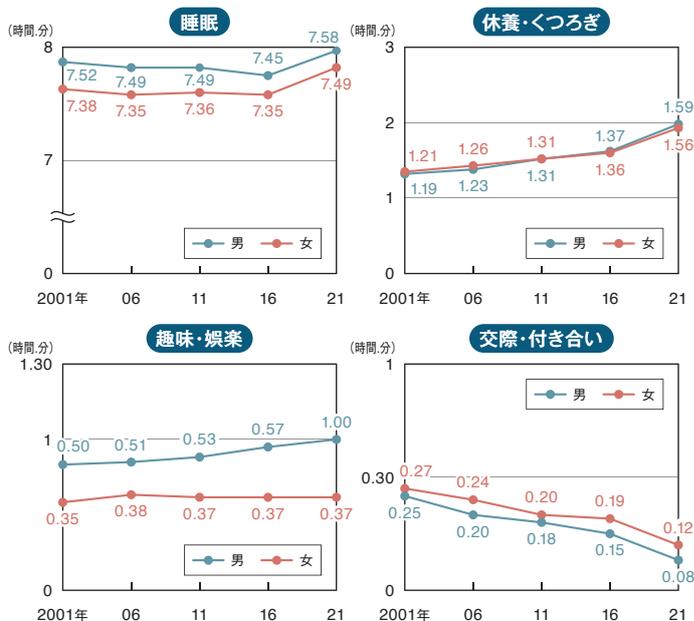
令和3年社会生活基本調査の結果から、テレワークによる「1日の生活時間の配分」の変化に着目した内容を紹介します。

今回の2021年結果は、新型コロナウイルス感染症の影響による三密回避の日常化や数度の行動制限により、前回調査となる5年前の2016年結果に比べ「1日の生活時間の配分」は変化し、新しい生活様式が浮き彫りとなっています。

「1日の生活時間の配分」(2021年)-週全体平均



男女、主な行動の種類別生活時間(2001年~2021年)-週全体平均

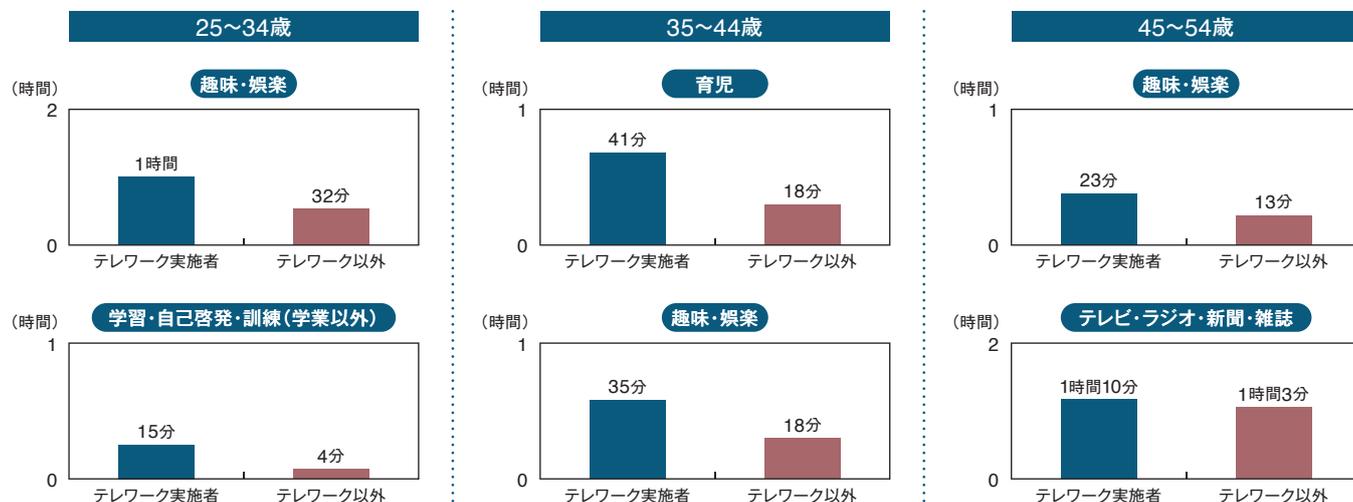


働き方改革や新型コロナウイルス感染症の影響によりテレワークが社会に普及してきました。そこで、テレワークによる「1日の生活時間の配分」の変化について見てみます。年齢階級別にテレワークの実施の有無別の生活時間を見てみると、全ての年齢階級でテレワークをしていた人の方がしていない人に比べ通勤・通学時間が非常に短くなっている中、25~34歳では、趣味・娯楽の時間が28分、学習・自己啓発・訓練(学業

以外)の時間が11分、35~44歳では、育児時間が23分、趣味・娯楽の時間が17分、45~54歳では、趣味・娯楽の時間が10分、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が7分、それぞれ長くなっています。

テレワークによる通勤時間の短縮による、「1日の生活時間の配分」の変化は、ライフステージに応じた特徴があることが分かります。

年齢階級別にみたテレワークの実施により行動時間が長くなっている主なもの(2021年)-有業者、平日



▶ 上記について、詳しく知りたい場合は、こちらをご覧ください。
<https://www.stat.go.jp/info/today/pdf/188.pdf>
 <統計Today No.188>

▶ 調査について、詳しく知りたい場合は、こちらをご覧ください。
<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/>
 (社会生活基本調査HP)